



「根津ピアノ」とともに語り継がれる 「日本の鉄道王」根津嘉一郎



東武鉄道など、全国33社もの鉄道会社の経営に関わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎。甲州財閥を代表する実業家は社会貢献にも力を尽くし、山梨県内の全小学校にピアノを寄贈した。そのピアノは「根津ピアノ」の愛称で、今も世代を超えて親しまれている。



市川三郷町の「根津ピアノ」。当時の市川小学校に贈られたとみられる。平成22年10月、当時の姿をそのままに残して修復された。



多くの人の心を癒やし、さまざまな思いを紡いできた「根津ピアノ」の音色は、今も世代を超えて人々の心に響き続ける。

経営手腕を見込まれ 東武鉄道の社長に就任

根津の実業界への関わりは、甲州財閥の一人、若尾逸平との出会いから始まった。明治29(1896)年、若尾が東京電灯(現・東京電力)の株を買い占めて経営権を手に入れた際に、根津も参画。その後監査役に就任し、明治38(1905)年には、その手腕を見込まれ、当時の東武鉄道経営陣から依頼されて社長に就任した。

光線に注目し、浅草から日光まで路線を延長。それまで年間30万人余りだった日光への参拝客は100万人に増加し、ポロ会社といわれた東武鉄道は一躍優良企業となった。

さらに明治39(1906)年には、東京で競合していた三つの鉄道会社が統合した東京鉄道の取締役にも就任した。以後、根津が経営に関与した鉄道会社は全国で33社を数えるまでに「日本の鉄道王」と言われるようになった。

社会から得た利益は社会に還元

アサヒビールをはじめ、他にも多く

の企業の再建に手腕を発揮し、「ポロ買いいちろう」と冷やかされるほど経営難に陥っている企業を多く買収したが、それらを見事に再建させた。また、富国徴兵保険(現・富国生命保険)を設立するなど、関わった企業は130社以上という大実業家となった。しかし根津は単に利益を求めた経営の成功者にとどまらなかった。

「事業を経営する究極の目的は、決して金を儲けると云ふ事ではない。国家や社会に本当に裨益(ひえき)しやうとする真の目的がなくては栄えるものではない」。根津の著書「世渡り体験談」に記されている一節である。

この信念のもと、自ら得た利益の多

くを社会に還元した。郷里である当時の東山梨郡平等村(現山梨市)の平等尋常高等小学校や笛吹川に架かる橋の建設費の寄付など、社会貢献に力を注いだ。その一つ、昭和8(1933)年に根津がふるさとへの思いを込めて山梨県内の約200の小学校に寄贈したピアノは、根津への感謝と親しみを込めて「根津ピアノ」と呼ばれた。

当時のまま現存している「根津ピアノ」は少ないが、県内各地の小学校などで見つかり、修復されよみがえっている。77年を経た今もなお、その音色が多くの人を惹き付けるのは、ピアノとともに根津の郷土を愛する思いも引き継がれているからだろう。

✎〈記事監修〉山梨大学 教育人間科学部教授 齋藤康彦

根津嘉一郎 ゆかりの地



万力公園と山梨市駅を結ぶ笛吹川に架かる根津橋は、根津の寄付により大正12(1923)年に建設された。平成7(1995)年に新しい橋に架け替えられ、初代根津橋の花こう岩で造られた親柱が、橋のたもとに保存されている。



根津の実家「旧根津邸」の保存と活用を目的に平成20(2008)年10月にオープンした。約6700㎡の敷地には国登録有形文化財の旧主屋や長屋門、土蔵をはじめ、復元された茶室、展示室などがある。

万力公園 (山梨市)



昭和7(1932)年、万力公園内に、有志3,000人の寄付により、根津の銅像が建てられた。第2次世界大戦中に軍用に供出され台座のみとなったが、昭和35(1960)年に根津の生誕100年を記念して再建された。

プロフィール

- 万延元(1860)年…甲斐国山梨郡正徳寺村に生まれる。幼名を栄次郎という。
- 明治22(1889)年…雑穀商や質屋業も営む生家「油屋」の家督を継ぎ、嘉一郎と改名。
- 明治24(1891)年…山梨県会議員当選。
- 明治26(1893)年…東山梨郡平等村村長に就任。
- 明治30(1897)年…同村村長を辞任し上京。株の相場師として名をはせる。
- 明治32(1899)年…東京電灯(現東京電力)監査役就任。
- 明治37(1904)年…衆議院議員当選、連続4期務める。
- 明治38(1905)年…東武鉄道社長に就任。
- 明治39(1906)年…東京鉄道(現・東京都交通局)取締役、日本第一麦酒(現・アサヒビール、サッポロビールの一部)社長に就任。
- 大正12(1923)年…富国徴兵保険(現・富国生命保険)社長に就任。
- 大正15(1926)年…貴族院議員となる。
- 昭和15(1940)年…享年80歳で永眠。